

園名：中央区立晴海幼稚園

所在地：中央区晴海1-4-1

園長名：上竹 陽子

園児数：182名

学級数：7学級

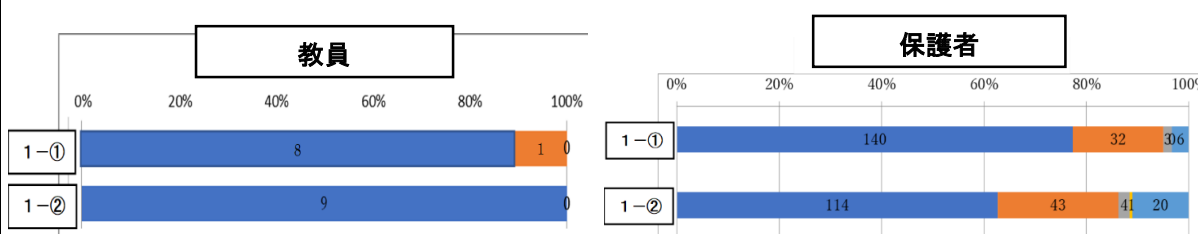
教職員数：21名

## 1 重点目標の達成状況及び取組状況

**A:十分達成している** **B:達成している** **C:改善を要する** **D:緊急に改善を要する** **※わからない**

### 重点目標1「小学校第6学年までを見通した中での幼児教育の充実」

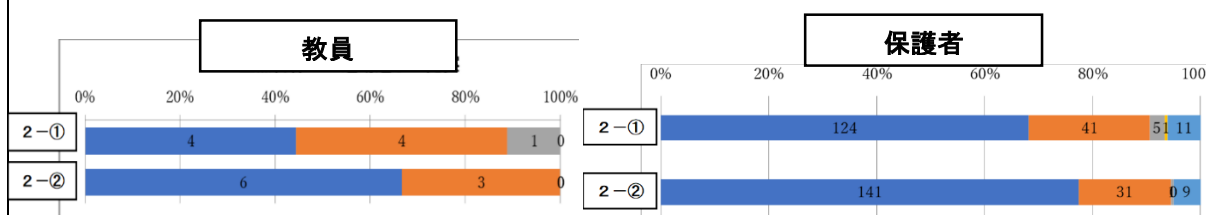
- ①全教員が指導計画に基づいた実践を行い、評価改善を重ねて教育内容が充実している。
- ②小学校、保育所・こども園との連携・交流を年6回以上、合同研究会を2回以上計画的に実施している。



①については、ともに高い評価となっており、日々の保育が充実し、幼児の主体的な学びにつなげることができたと考える。一方、②については、「A」の割合が教員よりも保護者の方が少なく、かつ「※よくわからない」の割合が1割ある。保幼小の交流については、十分な発信ができていなかったことが読み取れる。特に、併設小学校とは交流が日常的になっているからこそ、意図して発信する必要があったと考える。

### 重点目標2「運動遊びの充実」

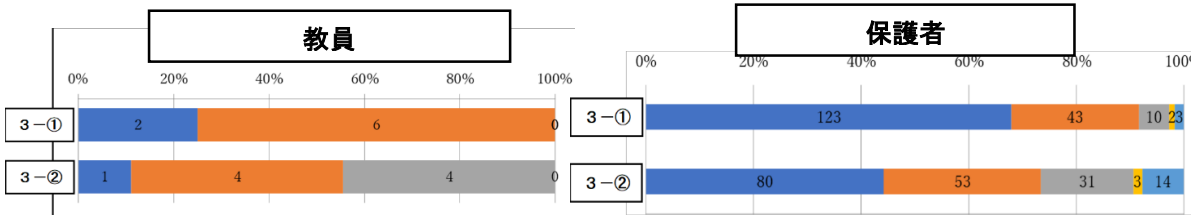
- ①地域の物的・人的環境や世界的競技大会を活用して、幼児の運動遊びへの興味関心を高め、体を動かす様々な活動に毎日取り組んでいる。
- ②「運動遊び推進園」として投力の発達を促す遊びを工夫し、取組を家庭に発信している。



①②ともに「A」「B」合わせた割合が9割程度を占めている。東京2020大会や講師の指導が、日々の運動遊びへの興味関心を高め、充実につながったと実感できた保護者が多くいたことが読み取れる。また、運動遊び推進園として「投げる」遊びに着目し、学年だよりや学級懇談会などの機会に継続して情報発信していたことが、保護者の理解につながったと考えられる。

### 重点目標3「地域・保護者との連携の充実」

- ①ホームページが定期的に更新され、教育内容が伝わっている。
- ②手紙や掲示物、降園時の話など、わかりやすく工夫されている。



ホームページへの保護者専用ページ開設、定期的な更新により、幼児の成長を共有し、教育内容の理解を深めることができたと考える。②については、コロナ禍で直接保護者と話す機会が減っているため、それを補う情報発信の機会や内容の工夫を考えていかなければならない。

## 2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

### 保護者による全体評価

全ての項目で、「4よくあてはまる」「3あてはまる」を合わせた割合は9割近くを占めている。幼児の姿から、生活や遊びを楽しみながら様々なことを主体的に学んでいる、と感じていただいているものとする。

一方⑭併設の小学校や近隣の保育園との連携が積極的に行われている、は、「4」「3」合わせた割合は9割を越えているものの、「4」の評価が6割程度で、「※わからない」という回答も見られる。また、⑫幼稚園は家庭への連絡や情報の提供に努め、すすんで子育て支援を行い、家庭とともに幼児を育てる体制づくりをしている⑮幼稚園公開や情報発信（保護者会・各種たより・降園時の連絡等）を通して、地域に開かれた運営が行われている、についても、同じような数値が見られた。重点目標3にもつながるところであるが、園の取組について評価いただいているものの、情報発信の内容に課題が残った。

保護者のニーズを探り、求められている情報を適切なタイミングで提供できるように、情報の収集と提供の仕方について工夫をしていきたい。

### 教員による全体評価

<指導計画・内容><情報提供>で改善を要する評価が見られた。

③幼児が主体的に判断、行動する力の育成が図られているか⑥園の遊びや生活の中で、命やものを大切にする経験を積み重ねているか、について、まずは、教師の意識改革を進める。③については、主体性を育む意識を教師がしっかりともって指導に当たれるようにする。⑥については、教師自身の人権感覚を見直し、思いやる気持ちや物を大切に扱うことを行動で示していく。その上で、幼児が自分で考えられるような指導を工夫する、栽培物や飼育物の世話を通して愛着が芽生えるようにするなど、具体的な改善策を実践し、教師一人一人の指導力を高め、幼児のよりよい成長につなげていきたい。

⑤必要な内容を適切な時期に伝えることができたか⑥本園の特色を分かりやすく効果的に表現し、適切な時期に提供しているか、について、コロナ禍においても、保護者会や学年級懇談会、幼稚園公開を行い、幼児の成長を写真や映像を通して直接伝えたり、実際に見て実感してもらうことができたりした点は、高い評価につながっている。学年便りやホームページでの発信を含め、必要な内容を適切な時期に伝えられるよう努めていく。

### 3 全体考察と今後の改善方策

上記より、今年度の評価結果について、以下のようにまとめられる。

① 幼児は主体的に遊びや生活に取り組むことができている。

幼児教育の重要な項目について、高い評価が得られたことは成果である。運動遊びや保幼小連携についても、幼児教育の充実には欠かせない内容であり、これからも継続して取り組んでいく。幼児の主体的な学びの充実のために、教育内容を改善し、教師の指導力の向上に引き続き努めていく。

② 幼稚園が、小学校・保育園・こども園・地域・未就園児とのつながりの中核となり、地域の幼児教育のセンター的役割を担っていけるようにする。

情報発信については、普段の情報の共有の機会が少なかったり、ほしい情報がもらえなかったりすると感じている保護者が多い。学年便りやホームページなど、情報発信のツールを効果的に使い分けていけるようにする。

さらに、情報発信の範囲を家庭にとどめず、未就園児や近隣の保育所・こども園など地域にも広く発信し、共有できるようにしていく。新型コロナウイルス感染症の状況によっては難しいところもあるが、地域や保護者への多様な発信、園内外の様々な人との関わりを工夫し、幼児の経験の幅を広く豊かにするとともに、晴海地域の幼児教育の質の向上につなげていきたい。